4人に1人の県民が犠牲になった沖縄戦

戦争を美化し、沖縄に基地を押しつける政治家にNO！を

80年前の6月23日、県民の4人に1人の命が奪われた沖縄戦の組織的戦闘が終結しました。この体験から沖縄の人たちは、『命こそ宝』の思いで平和を希求してきました。しかし願いは踏みにじられ、戦後80年を迎えた今もなお巨大な米軍基地が居座るばかりか、自衛隊基地の増強まで強行されています。

沖縄が軍事要塞に！！

沖縄全戦没者追悼式で玉城デニー知事は、「苦難の歴史を歩んできた沖縄は『命（ぬち）どぅ宝』を何よりも重んじ、争いのない平和な世界を願っています」と表明。いまなお、広大な米軍基地が集中し、新たな米軍基地を辺野古・大浦湾の豊かな海を埋め立て建設する暴挙や、自衛隊の先制攻撃の長射程ミサイル部隊を次々と建設する動きを、厳しく批判しました。

危険性除去は基地撤去で

辺野古に数兆円もの血税を注いで造ろうとしているのは、普天間基地になかった新たな機能を伴う巨大な軍事要塞です。この動きが県民や首長の声を無視した国家権力による「代執行」で進められています。民主主義と地方自治がゆがめられ、環境と平和も壊すものにほかなりません。普天間基地の危険性除去は、普天間基地の運用停止と撤去でこそ実現できます。

西田参院議員の重大発言

沖縄戦の史実をゆがめないで！

自民党の西田司参議院議員が、沖縄戦に動員された学徒を慰霊する「ひめゆりの塔」の展示説明を「歴史の書き換え」と発言し、「沖縄戦で民間人もたくさん犠牲になったが、助けるために日本軍が入った」と述べて批判を浴びました。沖縄戦は、本土決戦を遅らせるため日本軍が沖縄で時間稼ぎの持久戦を続け、県民に「軍官民共生共死」を強要し、県民の4人に1人が犠牲となる悲劇をもたらしたのです。歴史の歪曲は許されません。

7/20 投開票

政府は今、近隣諸国の「脅威」を挙げて、軍備増強にさらなる税金を注ぎこもうとしています。戦争を回避するためにすべきなのは基地増強ではなく、憲法9条の立場で外交に徹し、東アジアの対話の枠組み作りと非核化に力を注ぐことです。7月20日投開票で参議院議員選挙が行われます。軍備増強・核兵器容認の政治家か、平和外交・非戦非核を広げる政治家か。戦争の準備ではなく、「平和の選択」を呼びかけます。

辺野古新基地建設工事の中止と普天間基地撤去を求める署名にあなたも！

日本平和委員会 2025年7月発行
一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです
「平和新聞」（旬間）、「平和運動」（月間）発行中
http://j-peace.org/ ⓧⓕ